

～海外研修レポート～

町民代表 後藤 梨恵

7月半ばにこの研修のお話を頂き、事前研修では、派遣団14名で七飯とコンコードの歴史やアメリカでの生活について学び、期待と不安を胸に当日を迎えました。

普段子供達に英会話を教える中で、実際に英語圏の国で生活をし、確かめてみたいことが沢山ありましたので、今回の研修ではアメリカの生活に浸かり、今まで疑問に思っていたことは全部聞いて見て来よう！と心に決め、今後に生かせるようにとの思いで、挑みました。

～海外研修中の出来事～

成田から飛行機を乗り継いで15時間、コンコードに着いたのは夜9時でした。カーライル高校の外では沢山の生徒、保護者、先生達が「七飯町の皆さんようこそ」と言うメッセージを持って待っていてくれ、最初から感動してしまいました。

そして、私のホストファミリーであるスーザン(小学校の先生)、デイビット(弁護士)と初対面し、家に向かいました。家に入ると犬のカイラとすぐに仲良くなり、一瞬で癒されたのを覚えています。その日はあまり眠れませんでした。次の日からは毎日イベントが盛り沢山で、ベッドに着くと熟睡の毎日でした。

初日の朝は土曜日でしたが、スーザンが大学でも教えているとのこと、一緒に大学へ行き、授業を受けました。授業風景を見ていて感じた事は、生徒達がとても積極的で、次々と手を挙げて発言しています。これは大学だけでなく、小学、高校でも同じでした。

小学校訪問の時にも、生徒達は音楽、ダンス、スポーツ等、得意不得意関係なく、自分を表現する事にとっても慣れている印象を受けました。

授業後、「お昼に何が食べたい？」と聞かれ、とっさに「ハンバーガー」と答えました。アメリカと言えばハンバーガーしか思い浮かばない自分がちょっと悲しかったですが、ハンバーガーレストランへ行き、時差ぼけの中、大きなハンバーガーと大きなクランベリージュースを頂きました。

その日の夜は町民代表の対馬さんのファミリーの家で、パーティーがあり、私は日本からお好み焼きの材料を持参していたので、キッチンをお借りしてお好み焼きを作りました。14名分の巨大なお好み焼きを日本人3名で協力しながらひっくり返し、出来たときには大きな拍手が起こりました。対馬さんの作ったおにぎりと共にとても好評で、何度もおかわりをしている方もいて、嬉しかったです。初対面の方々と色々な会話をし、とても楽しい一時を過ごしました。



次の日から2日間、カーライル高校と七飯高校のジョイントコンサートがありました。スーザンが七飯高校の演奏に大変感動していて、私に「この感動をバンドメンバーに直接伝えたいんだけど、日本語でなんて言ったらいいの？七飯一番で伝わる？」と聞いてきて、七飯の生徒達とすれ違うたびに「ナナイチバン！！」と言っていたのがとてもほほえましかったです。

今回は私の教室の文通希望の生徒達から手紙を預かっていたので、それを渡す事が一番の使命でした。さっそくスーザンのクラスへ行き、手紙と私の生徒達が作った日本の年間行事カレンダーを無事渡す事ができました。スーザンの生徒達はとても喜んでくれ、日本についての質問も沢山してくれました。

特に面白い質問で「漢字は点を一つ間違えるだけで全く違う意味になるの？」と言うものがあり、私は実際に大、犬、太などの漢字を書いて、それぞれの意味を説明すると、みんな興味深そうに聞いてくれました。

またスーザンからは「近々インターネットで子供達が直接顔を見ながら会話出来るようにしよう」と提案もしてもらいましたので、実現させたいです。アメリカの学校はとてもハイテクノロジーで、スーザンのクラスにもホワイトボードの真ん中に大きなスクリーンがあり、パソコンを操作しながら授業を進めていました。そして生徒への宿題もインターネットを使い、スーザンは家に帰ると家のパソコンで生徒からの宿題をチェックしてました。マサチューセッツ州は教育にとっても力を入れているそうです。

そして、スーザンのクラスの中にはユウキという一人の日本人の男の子もいました。彼は私達に日本語で小学校の中を案内してくれ、最後のお別れの日にも姿を見せてくれました。いつか七飯に来たら家にホームステイに来てねと約束をし、お別れしました。

ホストファミリーとの語らいの時間は本当に楽しく、勉強になることばかりでした。スーザンは派遣団として一度七飯を訪れているので、七飯での思い出話や、日本とアメリカの違い(日本はメロンが異常に高い！、お弁当の手のかけ方がすごい！など)を朝食時や車の中で笑い合いながら沢山話しました。

デイビットからは、仕事柄か日本の犯罪や受刑後の事についての質問をされましたが、私はその辺りの知識が浅く、英語での説明もうまく出来ませんでしたので、これから調べてみようと思いました。うまくいった事もいかなかった事も、すべてが良い経験です。

又、3日目以降はコンコードの見所であるオールドノースブリッジやオーチャードハウスを見学したり、ボストンではハーバード大学の見学や、水陸両用バスに乗ってダックツアーにも参加しました。

ボストン観光のほとんどをスーザン、対馬さんとそのホストマザーのカレン(小学校図書館司書)と過ごしました。

私はスーザンとカレンに対して、普段の激務の中で、貴重な休日を私達のために使ってくれていることに申し訳ない気持ちにもなりましたが、スーザンが「カレンと職場以外でこんなにリフレッシュした時間を過ごした事はないから、これは私達にとっても素晴らしい時間なんだよ」と言ってくれたのが印象的でした。

またスーザンは私の今後に生かせるようにと、本屋さんで子供向けの発音の練習に良い

英語の絵本や、jack o lantan の作り方を教えてくださいました。英語の本は、日本で買うと割高なので、帰りのスーツケースを気にしつつも沢山買ってしまいました。

そして緑豊かなコンコードには、chipmunk や squirrel 等の野生のリスが沢山いて、見かける度に喜んで私を見て、最後の日にスーザンがリスのぬいぐるみをプレゼントしてくれました。そのリスを chippy と名付け、これから日本国内を旅行するときは必ず連れていき、日本の風景とともにスーザンに写真を送る事を約束しました。



ジャックオーランタン

10日間のホームステイの後、14名の派遣団でニューヨークに渡りました。大人数からいきなり14名になり、急に不安になりましたが、お父さんの様な雰囲気のある団長を筆頭に、終始なごやかな空気で過ごす事ができました。中高生は少し疲れ気味かな？と思いきや、元気に大都会を満喫している様でした。

宿泊したホテルは繁華街の真ん中にあり、真夜中でもパトカーや街の人の声が聞こえ、のどかなコンコードとはまったく違う、ここはニューヨークなんだと確認する瞬間でした。

～研修を終えて、これからの目標～

滞在中は色々な方の通訳の場面に沢山出会い、私にとってはとても興味深いものでした。一言で通訳と言っても業務的に的確に伝える時、話し手の想いや背景をうまく読み取って要約して伝える時など、単に語学力だけではなく、色々な所にアンテナを張る必要があると感じました。この事は今後の自分自身の勉強のための大きな動機になりました。

今回の研修では、本当にこれ以上はない程の歓迎を受け、感動的な事が沢山ありました。ホームステイの経験は昔1度ありますが、通常はここまでの歓迎を受ける事はまずないと思います。スーザンはよく「私が七飯を訪問した時、七飯の人達に本当に親切にしてもいい、素晴らしい経験をする事が出来たの。だからあなたにも同じ様な経験をしてほしいんだ。」と言っていました。長年積み重ねてきた両町の交流に、こうやって参加出来た事は本当に光栄ですし、今後は私も町民として出来ることをお返ししていきたい気持ちでいます。

また、国際交流のあり方についても深く考えさせられるきっかけになりました。言葉が通じなくても気持ちが通じ合えた瞬間を沢山目にしましたし、言葉が通じる事で、より深く理解し合える事も改めてわかりました。私を含め、同行した中高生達も、これからきっとアメリカの記事やTVを目にするたびに、お世話になった人達の顔が浮かぶでしょうし、世界を身近に感じる事が増える事でしょう。

これからの自分の役割は何か～と色々考え、英語を学ぶ楽しさ、その先にある可能性を沢山伝えていきたい気持ちがさらに強まりました。

スーザンとの話のなかで、「今回始まった両生徒の文通交流のなかから、いつかお互い

の生徒が派遣生として会う事が出来たら素敵だね」と話をしました。

この小さな交流の積み重ねが、世界の平和に少しでも繋がってしてくれる事を願いながら、今後も出来る限り交流を続けていきたいです。

今回の研修にあたり、サポートしてくださったコンコードの方々、役場をはじめ七飯町の方々、七飯高校の方々に深く感謝します。ありがとうございました。